

令和元年度在宅療養あんしん病院登録システム利用状況調査結果（概要）

【目 的】

在宅療養あんしん病院登録システムの登録者の入院等の利用状況、退院時カンファレンスの実施状況等を把握し、今後の本システムの改善を行い本システムへの満足度向上を図るとともに、今後の利用拡大に結びつける。

【調査方法】

- (1) 方式：アンケート方式
- (2) 対象：在宅療養あんしん病院 134病院
- (3) 評価期間：令和元年10月1日～11月30日

【利用状況調査結果】 ※有効回答数N=134病院

- (1) 利用実績等について（登録者数はR1.12.31時点）

入院利用実績のある病院数	登録者数 (58病院)	利用者数 (入院した人)	利用者の 平均年齢	利用者の 平均入院日数 (入院中を除く)	在宅関係者への 退院調整連絡
58病院	10,884人	417人 (うち、かかりつけ医によるあんしん病院依頼は50人)	84.1歳	15.9日 (癌・心不全等を含む)	有32.7% ----- 無67.3%

※（参考）全登録者数 14,479人

- ・利用実績を調べるにあたり、本システムを利用した入院かどうかの判断が困難であることから、登録者が入院した事例全てをカウントしている。

(2) 病院における地域連携担当者の取り組み状況

患者からの本システムに登録したいとの相談	有 56.7% 無 43.3%
登録者優先の入院調整	有 62.6% 無 37.4%

システム未登録者への紹介	有 29.9% 無 70.1%	
	無の場合の理由 ① 患者登録の手続きが煩雑 10.8% ② 診療報酬上の位置づけや補助がない 8.6% ③ 対象者像が不明確 17.2% ④ 入院対象となる状態の患者が少ない 23.7% ⑤ 既に多職種連携体制が構築できている 19.4% ⑥ 患者の病院への依存度が高くなる 1.1% ⑦ 患者がシステム登録や活用を拒否 1.1% ⑧その他(*) 18.3%	
院内の周知状況	医師	よく周知されている 6.7% まあまあ周知されている 47.0% あまり周知されていない 37.3% 全く周知されていない 4.5% わからない 4.5%
	病棟師長	よく周知されている 7.5% まあまあ周知されている 44.8% あまり周知されていない 39.6% 全く周知されていない 4.5% わからない 3.7%
	医事部	よく周知されている 20.1% まあまあ周知されている 51.5% あまり周知されていない 24.6% 全く周知されていない 1.5% わからない 2.2%
うまく活用できた事例	有 8.9% (うち情報提供可は 3 病院) 無 91.0%	
利用者からの苦情	有 0.0% 無 100.0%	

(*) 患者退院時のシステム紹介を行わない理由が「その他」の場合の主な内容

- 登録の有無に関わらず、入院依頼があれば受け入れる方向で調整しているため。(3件)
- 以前は行っていたが、人員不足のため行えていない。体制を整えば再開したいと考えている。
- 当院入院歴があれば、あんしん病院のシステムに頼らなくとも入院を受け入れるようにしている。

(3) 本システムに関する評価 (自由意見)

- 本システムを利用して良かった点、退院時の連携が進んだ点
 - 入院時にかかりつけ医やケアマネジャーの情報が得られること。(5件)
 - 独居の患者にあんしん病院の登録を勧め、当院との繋がりができたことと喜ばれた。
 - 在宅療養中の患者のセーフティネットとして有効と考えている。
 - 登録者はスムーズな受け入れを期待されており、本システムがあることで安心感につながっている。
 - 近隣医院、診療所からの連携が少しずつ増えている印象を受けている。
 - 登録の話をするとても安心されている。また開業医の先生方とも患者を通して関係が築ける。
 - 登録された方にはなるべく受診してもらうように伝えることができた。
 - 在宅医と連携を取り合い、患者情報を共有していることで、入院・退院後の支援がスムーズに行える。
- 本システムの改善要望点
 - 診療報酬上の位置付けや加算等あれば利用者増は見込めるかもしれない。(3件)

- 登録者としてもっと利用しやすいようにアピールしてほしい。連携医への連絡がスムーズにできればよいと考える。
- 地域の診療所の医師に理解が広まれば、利用促進に繋がると思う。
- 確実に入院できる、あるいは優先的に入院できるようになるものだと勘違いされている患者が見受けられるが、その説明をわかりやすくしていただきたい。
- 京都府や宇治市独自のものも含め「あんしん」と付く名の制度があり、法人内でもわかりづらく混乱する。
- あんしん病院（あんしんカード）の規定書式が使いづらい。
- 活用実績がないため、院内の認識度が下がっているのが現状。導入当初は積極的に患者にも周知していたが、システムを活用して入院されることがないため、当院でうまく機能しているとは言えない。
- 空床入力への補助金を再開してほしい。

以上